

# 月刊しばうら 2023年11月号

## 令和5年度 農林水産祭参加 全国肉用牛枝肉共励会

二年連続で農林水産大臣賞に 島根県 (株)松永牧場 様

枝肉単価 13,586円で (株)丸富商店 が落札

令和5年度全国肉用牛枝肉共励会が、10月24日から10月27日までの4日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ1道1都1府29県より選抜された第一部 乳用去勢牛及び交雑去勢牛68頭、第二部 和牛去勢牛271頭、第三部 和牛牝牛161頭の合計500頭で開催されました。名誉賞に輝いた第二部 和牛去勢牛の190号は、島根県から出品された(株)松永牧場様の出品牛で、父が「福之鶴」、母の父が「美国桜」、出生地が島根県の自家産で、月齢32ヶ月、生体重899kg、枝肉重量631kg、歩留70.2%、格付A5(BMSNo.12)、ロース芯の面積が113cm<sup>2</sup>、バラの厚み10.6cm、皮下脂肪の厚さ1.1cmで、全体に肉付き、均称の素晴らしい体型で、モモのサシ抜けが良好で、ロース芯が充実し、肉色・光沢に優れた無駄のない正肉歩留まりの良い名誉賞に相応しい枝肉でありました。枝肉単価は13,586円で、(株)丸富商店により落札されました。名誉賞に輝いた(株)松永牧場様は、農林水産大臣賞、東京都知事賞を始め、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。また、各部の最優秀賞は、第一部 栃木県の黒尾 浩一様の11号牛が、枝肉単価2,802円で(株)丸富商店、第二部 宮城県(株)笹谷様の295号牛が枝肉単価5,097円で(株)中村畜産、第三部 三重県(株)堀坂様の549号牛が12,814円で(株)丸富商店により購買されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第一部 乳用・交雑去勢	68	972	1,153	827	634	745	533	65.3	68.3	61.8	1,558	2,802	1,100
第二部 和牛去勢	271	858	1,066	707	589	720	467	68.7	75.4	62.0	2,654	13,586	1,717
第三部 和牛牝	160	716	934	581	484	614	382	67.7	73.2	61.1	2,887	12,814	1,600

本共励会の出品牛は500頭でしたが、うち1頭が検査保留となり上場できませんでした。また、本共励会の出品規則第6条「出品牛の資格」により、和牛去勢の部42頭、和牛牝の部で13頭の合計55頭が審査対象外となりました。審査の対象となったのは44頭でした。

## 牛肉営業部

### <10月の相場動向>

10月に入っても気温の高い日が続いたことや、葉物野菜の高騰などによりスライス需要へのシフトが遅れており、需要低迷も相まって、荷動きは鈍いようである。相場動向は先月と大きく変わらず、和牛・交雑については前月並み・前年割れの展開となった。

消費者の節約志向は継続し、国内における牛肉需要の回復は厳しい状況が継続している。また、訪日外客数の入国者数については9月推計値で218万4千人、2019年同月比の9割超えと順調に回復しつつあるものの、消費行動の変化もあり、牛肉消費の追い風とはなっていない。

### 和牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,556円	-123円	95.4%	+25円	101.0%
A4	2,083円	-270円	88.5%	+4円	100.2%
A3	1,836円	-298円	86.0%	+17円	100.9%
A2	1,619円	-200円	89.0%	+68円	104.4%

### 交雑去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,642円	-62円	96.4%	+6円	100.4%
B3	1,440円	-90円	94.1%	-29円	98.0%
B2	1,254円	-104円	92.3%	-9円	99.3%

### 乳牛去勢

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	843円	-247円	77.3%	+71円	109.2%

### <11月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、9月の輸入量は前年同月比28.7%減の3万7,044tで、うちチルドは9.8%減の1万5,337tと下回った。フローゼンは、前年同月比37.9%減の2万1,707tと大きく下回った。

農畜産業振興機構によると10月の牛肉輸入数量は、前年同月比27.2%減の3万5,400t(チルド5.3%増、冷凍41.0%減)、11月は9.9%減の3万5,500t(チルド13.7%減、冷凍6.8%減)で予測している。11月のチルドは豪州産を除いて、殆どの輸入先からの輸入量が減少、フローゼンも国内の在庫が多いことから、輸入量が少なくなる見込みで、前年を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		9月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,494	6,207	120.7%
	米国	6,617	9,041	73.2%
	その他	1,226	1,750	70.1%
	合計	15,337	16,998	90.2%
フローゼン	豪州	9,484	14,036	67.6%
	米国	5,668	10,869	52.1%
	その他	6,555	10,044	65.3%
	合計	21,707	34,949	62.1%

出典：食肉速報

### <11月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による11月の出荷予測頭数は、全体で前年比97.5%の10万8,700頭で、品種別にみると和牛は1.9%減の5万2,800頭、交雑種は0.1%減の2万5,000頭、乳用種は4.5%減の2万9,400頭と予測している。

東京食肉市場の11月のと畜頭数は8,980頭を予定しています。

### <11月の牛枝肉相場見通し>

11月に入っても気温が高い日が続き、葉物野菜も高値が続くなど10月と同じ傾向が続いている。円安も継続しており、一部では値上げの頭打ち報道もあるものの、生活コストは上がったままであり、消費者の節約志向は続くと考えられる。年間の最大需要期である年末年始を控え、その手当て買いが月の後半から始まることから、相場は上がっていく時期にはあるが、上り幅は例年に比べて緩やかなものになると考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450~2,800	B4	1,450~1,650
A4	2,100~2,400	B3	1,350~1,400
A3	1,850~2,050	B2	1,200~1,300
A2	1,700~1,850		
乳牛去勢			
B3	950~1,050		
B2	800~900		

## 豚肉営業部

9月の全国と畜頭数は、前年同月比4.9%減の129万頭となった。また、9月の豚肉通関数量は6万1,773t(前年同月比14.9%減)と前年を下回り前月比では16.4%の減少となった。内訳はチルドが2万6,692t(9.3%減)、フローゼンは3万5,081t(18.7%減)と大幅に減少した。

### <10月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2日	63,300	612	601	788
3日	63,800	604	600	821
4日	62,900	628	604	631
5日	63,900	626	604	673
6日	64,400	619	599	907
10日	71,700	623	607	739
11日	67,300	612	602	991
平均	65,329/日			793/日

3連休に向けた手当ても入ったことで9月下旬に急落した相場は反発し、上物・中物共に600円を上回る展開となった。更に円安が進み1ドル150円を超え厳しい輸入状況となったことで輸入物の需給が逼迫し、国産物の需要は底堅い展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	68,400	627	599	844
13日	66,300	591	576	1,029
16日	67,600	591	556	740
17日	68,900	560	554	996
18日	66,600	529	481	718
19日	69,100	500	468	898
20日	65,300	497	484	1,102
平均	67,457/日			904/日

気温が下がり、ようやく秋らしい陽気となったことから、全国と畜頭数は6万頭台後半で推移した。10月上旬としては異例の上物600円絡みの底堅い相場だったが、中旬に入り一気に下落し、500円を割り込む急落となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	69,200	495	486	778
24日	69,500	501	492	1,000
25日	67,400	510	497	771
26日	69,600	499	489	641
27日	64,700	509	502	1,045
30日	71,200	522	505	797
31日	71,700	522	502	991
平均	69,043/日			860/日

豚の増体も順調に進み、安定した出荷頭数が続いた。急落した相場も徐々に戻し始め500円台の展開となった。また、輸入物の逼迫感が続いたことから、量販店では国産物へのシフトするケースがみられた。

### <11月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による11月の肉豚出荷予測は147万9,000頭(前年比99.7%)と予測している。当市場の11月の集荷予定せり頭数は1万8,300頭、1日あたりでは約915頭を見込んでいます。

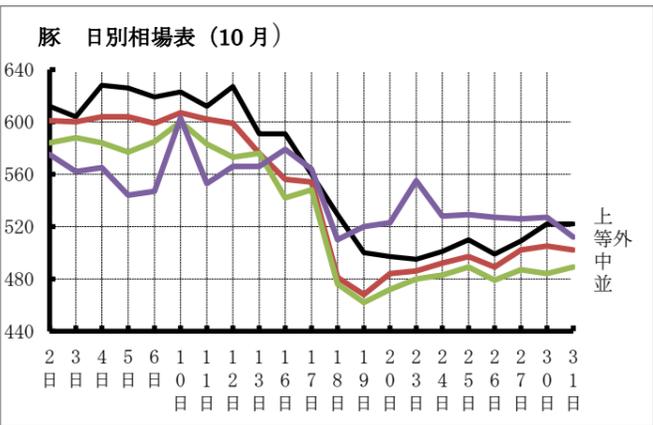
農畜産業振興機構によると11月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万9,500t(同79.1%)、内訳は冷蔵輸入量が3万1,300t(同74.2%)、冷凍輸入量は3万8,200t(同83.6%)と予測。

冷蔵品輸入量は北米産の現地相場高や為替の影響に加え、前年のカナダ産輸入量が多かったこと等から、前年同期を大幅に下回ると予測する。また3ヵ月平均も前年同期をかなりの程度下回ると予測する。冷凍品輸入量は国内の輸入品在庫が多いことや、欧州産の現地相場の高騰等から、前年同月を大幅に下回ると予測する。同様に3ヵ月平均でも前年同期を大幅に下回ると予測する。

例年11月は出荷頭数が多くなる時期であり、現状の実需が強くない限り豚肉相場が大幅に上昇する可能性は低い。また、先月から相場が例年並みに下がったことで、引き続き冷凍品を仕込む動きが強まることが見込まれる。

末端消費は決してよくないものの、輸入チルドのコスト上昇や野菜価格の高騰、消費者の節約志向の高まりなどから、継続してスソ物の引き合いは強くなることが予想される。今後は気温の低下に伴い、鍋物需要が本格化するとみられ、バラなどのスライス材を中心に荷動きが良化することで、相場に影響を与える可能性が高い。

以上のことから当市場の上物平均価格は550円前後、中物平均価格520円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127